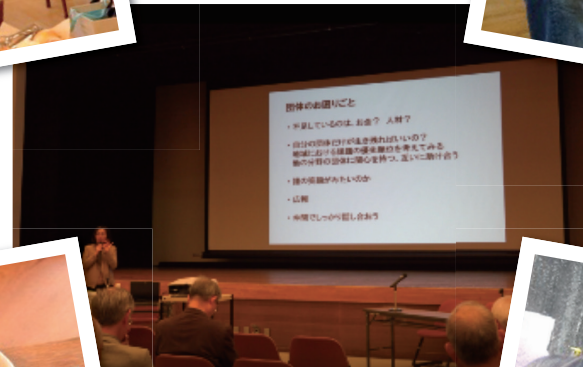


旭区きらっとあさひ 地域支援補助金 平成30年度 活動紹介



旭区マスコットキャラクター
「あさひくん」



旭区内では、自治会町内会、福祉活動団体及び市民活動団体など地域の皆さんが、子育て支援、高齢者の居場所づくり、移動支援、防災啓発など、多岐にわたる課題の解決に向け、さまざまな地域活動に取り組んでいます。

継続的な地域活動を支援するため、旭区では「旭区きらっとあさひ地域支援補助金」の交付などの支援を行っていますが、地域活動を始めるにあたり、事例を紹介してほしいという声が寄せられています。

そのため、本冊子は、「平成 30 年度旭区きらっとあさひ地域支援補助金」の交付団体の活動を紹介するために作成しました。地域で新たな地域活動を始める際に、参考にいただければと考えております。

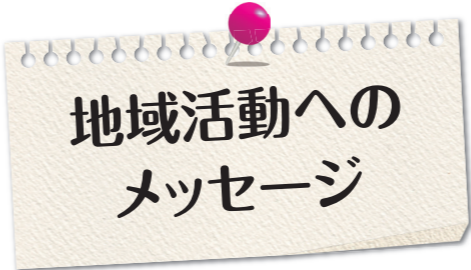
地域活動に関するご相談は、いつでもお気軽にお寄せください。住みよいまちをつくるため、区民の皆様と一緒に取り組んでまいります。

平成 31 年 3 月
旭 区 役 所

目 次

- 平成 29 年度交流会 3
- 「ハートフル・ポート」活動紹介 4~5
- 「しらね相友さくら会」活動紹介 6~7
- 補助金交付事業の紹介 8~13
- 旭区きらっとあさひ地域支援補助金の申請のポイント 14~15

平成 30 年 3 月 12 日に、旭公会堂にて旭区きらっとあさひ地域支援補助金交流会を開催しました。当日のコーディネーターは、関内イノベーションイニシアティブ株式会社の治田友香氏でした。



「地域活動を進めるために大事なことは」

コーディネーター 治 田 友 香

地域活動を進めている団体にとって、「ヒト・モノ・カネ・情報」の中で一番大事なものは何でしょうか。いずれも必要なものですが、地域活動を行う目的を仲間（ヒト）と話し合って共有することが、私は一番大事と考えます。「モノ・カネ・情報」は、そのあとで考えていってもいいと思います。

「モノ・カネ・情報」を考えると、頼りになるのは行政です。旭区役所などが窓口となって、各種情報の提供を受けられます。補助金申請のときも、受付だけでなく相談に応じてくれますし、他団体の活動情報などを得るのにも便利です。行政に相談に行くときは、できれば仲間を誘って複数人で行きましょう。仲間との情報共有がその場でできますし、複数人で確認しながら話を聞くことができるので、情報が正確に得られます。

なお、「補助金」を申請する時の一番のポイントは、仲間とよく話し合って共有した目的を根底にして、申請書類を作成していくことです。そのヒントは、募集要項の審査基準にあるので、よく読みましょう。こうしたプロセスが、地域活動を進めていく力となりますし、審査会でのプレゼンテーションなどでも、自信をもって説明することができます。

活動に行き詰ったら、まずは仲間と話し合しましょう。「誰の笑顔を見たいのか」を確認し合いながら、活動の原点に戻ること、新しい道が開けるかもしれません。

～交流会で活動発表を行った次の 2 団体をご紹介します～

「ハートフル・ポート」

- 多世代交流型「住み開き」カフェの支え合い事業

「しらね相友さくら会」

- 白根相友自治会支え合いネットワーク



ハートフル・ポートが生み出す3つの「つながり」事業



主婦パワーを生かしたカフェの運営

主婦・母親という役割を担ってきたスタッフの経験と知恵を最大限に生かしたカフェの運営を行っています。温かな手作りのお料理、そっと寄り添った対応。だれもが「港」だと思ってもらえる環境を整えています。



地域の人材を生かした多世代交流のイベント開催

地域に潜在する人材を生かし、参加する側から主催する側になってもらい、イベントにかかわるすべての人たちの生きがいを生む場になっています。ここで集まる多世代の人たちのつながりが新たなつながりにも発展しています。



地域住民の主体性を生かした地域の課題解決する場を提供

地域で孤立している人たちが、安心して食事をしたり、おしゃべりできる場を地域の人たちが主体的に提供しています。みんなで食卓を囲む「みなと食堂」、認知症の方やそのご家族も安心して足を運んでもらえる「みなとの茶店」などそれぞれ月1回開催。



みなと食堂
地域の大家族食堂
～孤立している人を孤立させない～
毎月第3金曜日 16:00～19:00



食卓というのは、いろいろなことが学べる場である。異なる年齢の子どもたちがともに遊んだり、喧嘩をしたり、料理をしたり。「食育」にも力を入れている。地域の方から提供していただく無農薬野菜をたっぷり使って、赤ちゃんからシニアまでみんなで食べる晩ご飯。



※2018年12月一旦終了し、新年度から新しい形でスタート予定。

この希望の街で
街の歌をCDに!
地域の人と制作



音楽でこの街を元気にしたい!と活動をしている音楽家と住民が制作したCD。この街で生まれ育ち、泣いたり笑ったりして大きくなり、この街を巣立った後もここを故郷と思えるようになってほしいとの願いを込めている。レコーディングもハートフル・ポートで。

振付も加わって広がる気配。
<https://www.youtube.com/watch?v=loL4LA4ORqw>

多世代交流イベント
企画の持ち込みによるユニークな内容

基本的に地域に住む人の持ち込みによる企画。赤ちゃんからシニアまで楽しめる、音楽、本、手作りなどのイベント多彩。

住み開きセミナー
自分もやってみたい!を応援する

自宅を利用して、地域に開かれた場づくりをしたい人向けにセミナーを開催。はじめの一歩を応援する。

みなとの茶店
認知症の方やご家族も安心して出かけられる場所
毎月第1水曜日 14:00～15:30

地域ケアプラザと協働して、ボランティアの人たちと運営。専門家によるミニ講座や音楽を楽しむコーナーあり。



ハートフル・ポート代表の五味さんに聞いてみました

- Q** 補助金がある意義は何だと思いますか。
- A** 五味さん：地域が抱える社会的課題解決のために、自分のしたいことが誰かの役に立つとしたら、生きがいになります。補助金は一歩を踏み出すために必要な資金として背中を押してくれるものと思います。
- Q** 自立した活動をするための補助金の活用についてどう考えていますか。
- A** 五味さん：補助金は、ロケットのブースターのように、あくまでも活動を補助するためのものなので、頼りすぎないで、自分たちで自立できるための収入を確保する努力を忘れてはいけません。

ハートフル・ポート代表からのつぶやき

～持続可能な活動にするために…～

ハートフル・ポートには、日々いろいろな方がやってくる。ひとりでふらっとお茶を飲みに来たり、お友達とランチに来たり、いろいろなイベントに参加しに来たり、赤ちゃん連れでのんびり絵本を読みに来たり、空いている時間を狙って子守をしながらギターの練習に来たり、自分の夢を語りに来たり…。最近特にひとりで来られる人も増えてきた。ここに来たらホッとする、元気になるという人も多いのはとてもうれしいことだ。

理由は何であれ、ここに来たら誰かと繋がり、新しい出会いや刺激をもらっていく方も多い。これまでやったこともないことにチャレンジしたり、まったく知らない人同士がここで親しくなったり…。そして、自分の夢を語っているうちに実現するための一歩を踏み出す方もいたりすると、とてもうれしくなる。

やりたいことをする、誰かと繋がる、何らかの社会的役割を担う—といったことは、人が生きていく上で元気に長生きするためにもとても大事なことであるようだ。それが生きがいとなり、自分もそして周りをも幸せにする。自分がやりたいことに賛同してくれる人や共感してくれる人を増やす。想いを共有し、応援し、応援される—そんな関係を築いていくことで、事業は広がりを見せ持続可能になる。事業を回していくのに大切なのはお金ではない。大事なものは、人であり、想いであり、知恵なのである。

ハートフル・ポートは今後もどんどん進化し、何が始まるのか分からない。しかし、その時々で必要だと思う活動を必要だと思う人が主体的にかかわりながら、想いを共有し合って展開していける場であり続けたい。

※本ページの紹介は、旭区きらっとあさひ地域支援補助金の交付を受けていない事業も含まれます。

しらね相友さくら会の今年度の活動

旭区きらっとあさひ地域支援補助金交付 2年目の『しらね相友さくら会』は、白根相友自治会とグリーン&フラワー友の会（自治会内の有志の集まり 7名）を一つにした 13名の集まりで、自治会内の『白根相友自治会支え合いネットワーク』づくりを目指しています。

主な活動のねらいは、自治会内の交流を深め、お互いの顔の見える関係づくり、大災害を想定した近隣相互の共助です。その実現のために、今年度行った具体的な活動を紹介します。

1 自治会アンケート調査実施 4月（2年目）

大災害時に援護が必要な方の調査をメインに実施しました。自治会内の年齢構成を把握し、一人暮らし会員や、大災害時援護希望者の確認を行うアンケートを集計しました。

《集計結果》… 366世帯 329軒、一人暮らし 50世帯（内 75歳以上 31世帯）、大災害時援護希望者 104名、小学生以下 109名。



2 親子で楽しめる行事の実現

これからの自治会を担っていく若い人材の育成を図るために保護者と子どもたちが楽しめる行事を計画。自治会への関心を深めてもらう機会をつくりました。

- 父の日に今宿東公園でのファミリーデー 6月（1年目）
ディスクゴルフ大会（大人、子ども合わせて 46人参加）
- キッズ縁日 2018 7月（4年目）
自治会館内での縁日（大人、子ども合わせて 100人近くが参加）
- 年末餅つき大会 12月（4年目）
班長中心に係分担し、200パックのきな粉餅・海苔巻き餅を作り、1家庭1パック無料配布（約 50軒の親子連れが参加）



3 老いも若きもラジオ体操（4年目）

小学校の夏休み始めの7日間と終了前の7日間の2回にわたって今宿東公園でラジオ体操会を実施しました。

スポーツ推進委員に指導をお願いし、保健体育係の班長を中心に運営。14日間での延べ参加者は、子ども 275人、大人 393人、合計 668人でした。



4 ふれあいサロンの実現 毎月（1年目）

「自治会館を地域交流の場として有効に使いたい」という願いから、ほぼ毎月1回ふれあいサロンを始めました。白根地域ケアプラザのコーディネーターと相談しながら季節の話題や身近に関心があるテーマを設けています。コーヒー・抹茶 100円、お茶・紅茶は無料です。

7月 七夕まつり（参加者 大人、子ども合わせて 28人）、9月 認知症サポーター養成講座（講師：旭区ひまわりの会、



参加者 32人）、11月 感染症の予防を学ぼう（講師：白根地域ケアプラザ保健師、参加者 21人）、1月 おれおれ詐欺講座（講師：白根地域ケアプラザ所長、参加者 18人）などを開催しました。

毎回 20人近くの方が集まっています。テーマを設けることで参加者同士の会話が弾み、良い交流の場となっています。参加者は固定しがちですが、テーマによっては初めて参加する方もいて互いが顔見知りになるという狙いがほぼ達成されているように思います。今後、サロン開催に携わるメンバーの拡大を地道に図ることが課題です。

5 黄色いハンカチを使った安否確認訓練 11月、3月（2年目）

大災害発生時に黄色いハンカチを出すことで安否確認を行います。11月に第1回訓練を実施しました。要援護希望者の近隣の会員が、要援護者のハンカチ掲出の有無を、要援護支援者（しらね相友さくら会）に電話連絡するように依頼し、連絡体制を整えました。

自治会全体では 210軒 62.1%の会員が黄色いハンカチを出しました。



6 年末餅つき大会への要援護者の招待 12月（4年目）

餅つき大会に要援護者の方を招待しています。2018年までは年賀状を書いて招待状としました。今回は12月に少し早いクリスマスカードを配り、お汁粉を用意しました。

7 要援護者と大災害時援護希望者へのフラワーポット配布

横浜市から春・秋の二回、花苗の配布を受けるとともに、旭区きらっとあさひ地域支援補助金でさらに 100株を購入して、フラワーポットをつくり、要援護者と自治会アンケートの大災害時援護希望者に、100鉢を配布しています。花と緑を介した地域の交流に役立っています。



8 班長会運営の改善

「班長会の主役は班長」であり、22名の班長が隣近所に気を配り、少しでも暮らしやすいまちを目指しています。安心・安全なまちを意識して生活することが『白根相友自治会支え合いネットワーク』を支えていく原動力です。

昨年度まで、班長会の議題の初めは連合理事会報告でした。今年度からは、各班長からの報告（班内の高齢者、一人暮らしの様子、困りごと、班の話題など）を最初に行っています。

【参考】自治会活動を理解してもらうには、広報活動が重要です。紙ベースでの相友ニュース、班長会報告の作成・配布だけではなく、インターネットを活用した広報も行っています。

HP・ブログサイト	https://shirane-soyu.amebaownd.com/ 「横浜市旭区 白根相友自治会 オフィシャルサイト」
	https://www.facebook.com/soyu.shirane/ 「そうゆうフェイスブック」(100人/日)
	https://ameblo.jp/shirane-soyu/ 「そうゆう通信」(200～300人/日)

※本ページの紹介は、旭区きらっとあさひ地域支援補助金の交付を受けていない事業も含まれます。

旭北地区連合自治会

旭北地区

● 中堀川いこいの場づくり

旭北地区にある水辺「中堀川プロムナード」に花植えや児童による絵画を飾り、花育[※]や地域住民の交流を図ることを目的として活動しています。花と緑のきれいな「いこいの場」が整備されることで多くの住民が集う「安全・安心な地域」となるとともに、花植えやイベントを継続することで、地域住民の環境整備への関心を高め、若い世代の参画を増やし、さらなる地域の活性化につなげていきます。

※花育 花を育てることで、子どもたちのこころを育む活動



県営今宿団地自治会

今宿地区

● 県営今宿団地健康団地づくり事業

県営団地に住む高齢者が生きがいをもち、健康で安心して住み続けられるようにと始めた「まごころの家」は、交流の場として住民同士のコミュニケーションを大切に活動してきました。今年度は、中学生ボランティアが開く「かたびら珈琲」の会場にもなり、さらに世代交流の場としても活用されています。今後も住民が気軽に足を運べる場として、様々なイベントやおしゃべり会等を開催していきます。



旭区まちづくりポット

旭区全域

● あさひブックプロジェクト

『旭区まちづくりポット』は、旭区の読書活動を市民主体で行っています。本の愛好者同志の交流はもちろんのこと、「いちにち図書館」「古本市」「ビブリオバトル」「トークイベント」等でたくさんの方に本へ興味を持ってもらうために読書活動を通した様々なイベントを開催しました。さらに今年度は、「旭区読書活動推進目標」の策定にも協力しました。



災害時支援プロジェクト

鶴ヶ峰地区

● 災害時支援プロジェクト

第一弾として作成した「災害時いっとき避難場所マップ」を利用して町内を散策し、危険箇所等の確認を行いました。また、町内にある企業や高齢者施設、障がい者施設とも連携を取り、定例会を行うことで顔見知りを増やし、災害時等のいざという時に事故のない体制づくりを行っています。今年度は、災害時用のグッズを利用した説明会等も随時開催しています。



今宿地区町内会自治会連合会

今宿地区

● 安全安心まちづくり事業

今宿地区町内会自治会連合会は、安全・安心のまちづくりを目的に事業を進めています。年に4回発行している地区広報紙には、9つの町内会や各諸団体の活動のお知らせと報告を掲載しています。町内の活動への関心を高め、行事への参加の呼びかけや会員の加入促進に役立っています。また、他団体の活動を相互に参考とすることができるなど、安全・安心まちづくりの一助となっています。



白根東部町内会

白根地区

● はくとう 次世代の架け橋

白根東部町内会で課題となっている、少子高齢化、防犯・防災、環境問題を「親子の家庭菜園」「グラウンドゴルフ」「公園整備活動」等の次世代交流活動を行い、地域住民を中心にコミュニケーションの充実を図ることで課題の解決を目指しています。また、高齢者が健康管理や生きがい活動等で屋外活動を行うことにより、公園内環境整備や安全・安心なまちづくり、青少年健全育成を行い次世代への架け橋とします。



電子顕微鏡でミクロを観る会

若葉台地区

● 小中学生の理科教育の推進と地域の交流

小中学校では通常見ることのない電子顕微鏡は、様々な植物や菌、微生物を見ることができます。「ミクロの世界」を体験しながら実際に役立つかもしれない菌を探す実験、雑草の話、地域の文化祭での発表等、楽しみながら子どもたちが理科への関心を高め、地域の方々との交流も深めていきます。また、夏休みの研究発表のヒントや地域の学校との連携事業などにも一役かっています。



二俣川地区連合自治会

二俣川地区

● 二俣川地区防災・減災啓発推進事業

昨年度の「視覚障がいのある方への理解と誘導の仕方」に続き、今年度は「知的・発達障がい児者への理解」として講演会を行いました。実際に避難所等に対応する際の話しかけ方等、気をつけたい点を具体的に聴くことができました。地域の中で暮らしている様々な方との普段のコミュニケーションを大切にしながら、いざという時に支え合う地域づくりをしています。



特定非営利活動法人 オールさこんやま

左近山地区

● 左近山移動支援プロジェクト

左近山団地に住む高齢者の買い物等の生活支援や通院のお手伝い、ひきこもり防止、外出のきっかけとして「左近山おでかけワゴン」が団地の周辺を走行しています。また、定期的に高齢者のお食事会の送迎やお花見会等のイベント便としてもワゴンを活用してもらっています。利用者は会員制になっているため、左近山団地住民には回覧板や掲示板でのPRも積極的に行っています。運転者や付添いのボランティアも随時募集しています。



ほのぼのの食堂 はく

笹野台地区

● こども食堂 かがやき食堂

「美味しいものを食べると笑顔になる」をモットーに核家族化が進む現代において、孤食の子どもやひきこもりがちな高齢者、子育て中の方にも美味しい物をおなか一杯食べてもらいます。偶数月には高齢者向け「かがやき食堂」、奇数月には「こども食堂」を開催し、日本人が大切にしている季節感を食事を通して伝えるとともに、住民同士の交流が深まり、地域のみなさんの笑顔が増えるよう活動しています。



特定非営利活動法人 オールさこんやま

左近山地区

● 小学生への学習支援

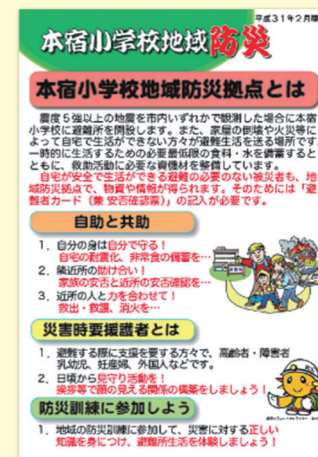
地域の小学生を対象とした「さくら教室」は、地域の交流スペース「ほっとさこんやま」を会場にしています。一般的な学習塾とは違い、地域のボランティアが子どもたち自らが勉強できるようお手伝いしたり、勉強の仕方について楽しく教えています。周辺の大人とも顔見知りになり、世代間の交流の時間にもなっています。



本宿小学校地域防災拠点運営委員会 鶴ヶ峰・旭南部地区

● 本宿小学校地域防災・減災推進事業

6自治会・町内会の防災意識の向上のため、毎年マニュアルを作成し、防災拠点での訓練等に貢献しています。今年度は、避難所において要援護者へ配慮し、安心して避難所生活ができるように運営マニュアルを作成、配布しました。このマニュアルを基に本宿小学校地域防災拠点避難訓練を実施するなど、約4千世帯の防災意識向上につなげ、地域住民による自助・共助の体制の確立に取り組んでいます。



万騎が原連合自治会

万騎が原地区

● 万騎が原連合地区安全安心マップ作成委員会

万騎が原地区の新たな会員にも地域を知ってもらうことで、地域全域の安全・安心なまちづくりの充実につながるよう、防災・防犯ガイドを作成します。ガイドには、「万騎が原連合とは何か」や近くの医療機関等を紹介するとともに、大規模災害に向け、一時避難場所や地域防災拠点、広域避難場所及び避難経路も掲載します。また、防犯上必要な交番や防犯連絡所の位置も確認できるようにしています。



若葉台第一自治会

若葉台地区

● 高齢者の居場所作りと高齢者の見守り事業

若葉台第一自治会では、ひきこもりがちな高齢者が楽しめる居場所作りを目標に、レコード鑑賞会や昼食会を開催し、気軽に外に出てきてもらうきっかけづくりを行っています。また、高齢者に救急用医療情報キット（マイカプセル）を配付し、いざという時の備えをしています。



わかば子育てサポートグループ

若葉台地区

● 地域包括子育てサポート

地域で共に支え合うことを目的に、若葉台に住む経験豊富なサポーターが、子育て世代を多方面から支援しています。具体的には、「わかサポキッズルーム」の開催、保育園などへの送り迎え、イベントでの預かり保育などを通して、子育て中の人をお手伝いしています。子育て世代にも魅力ある若葉台地域をつくり、未来へつなげていきます。



若葉台二丁目南自治会

若葉台地区

● 若葉台二丁目南地区自主防災組織立ち上げプロジェクト

若葉台二丁目南自治会では、自治会設立から36年が経過し居住者の高齢化率も高くなっている昨今、「自主防災組織」設立の必要性が高まりました。そういった経緯を踏まえて立ち上がった若葉台二丁目南地区自主防災組織では、居住者の被害を最小限に抑えるために、防災計画の作成や防災備品を活用して実際の災害時を想定した訓練などを行うことで、災害時における自助・共助に関する住民の意識向上や向こう三軒両隣の連携を進めています。



若葉台北自治会

若葉台地区

● 高齢者みまもり「サロン若北」

「4つのあい（知りあい・認めあい・助けあい・守りあい）」を若葉台北自治会のスローガンに、月1回の昼食会を開催しています。年4回の歌声サロンには音楽療法士を招き、参加者のお楽しみと健康増進のために行っています。また、参加者の要望を聞きながら映画会や演芸会、健康体操等を行うことで高齢者の健康寿命を延ばします。



若葉台もみじ自治会自主防災会

若葉台地区

● 防災意識の向上並びに発災時の安否確認体制の確立

30年以内に70%以上の確率で発生するとされている首都直下型地震に備えて、もみじ自治会のメンバーを中心に、管理組合とも連携を取りながら運営委員会を立ち上げ、発災時の安否確認体制を整えています。また、定期的に避難訓練を行うことで、住民同士のつながりをさらに深め、防災意識の向上を図っています。



旭区きらっとあさひ地域支援補助金とは

地域福祉の推進など地域課題の解決に取り組むさまざまな活動団体(自治会町内会、各種委員、社会福祉団体、市民活動団体、NPO、各種ボランティアグループなど)による取組を支援するため、活動に必要な経費を補助する制度です。

地域活性化、地域福祉推進、高齢者の居場所づくり、防災の啓発など対象事業はさまざまです。



事務局からのアドバイス

Question
この補助金を申請できる対象事業を簡単に教えてほしいな

Answer
5人以上の旭区民で構成された団体が、新たに取り組む事業を対象としています。詳しくは『申請の手引き』をご覧ください。

Question
やりたいことはあるけど、申請するにはまず何をしたらいいんだろう？

Answer
メンバー同士で何を目標にするのかよく話し合しましょう。

Question
補助金を申請したいけど、分からないことがあって不安だなあ・・・

Answer
そんなときはご相談にのります！まずは区役所までご連絡ください！

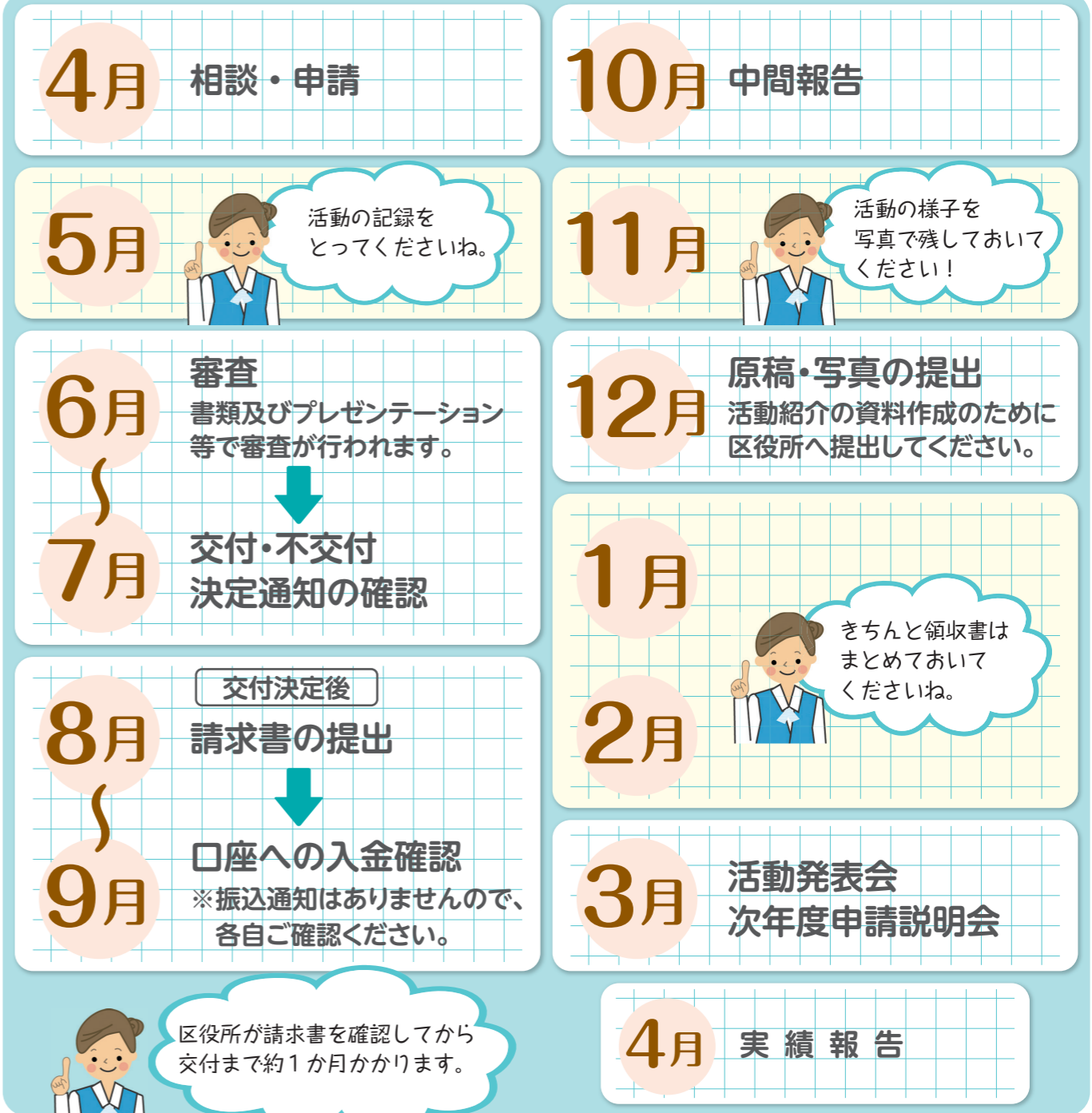
Question
補助金交付終了後、活動を続けるためにはどうしたらいいのかな？

Answer
一年ごとの見通しや交付終了後を見据えた具体的な計画を立ててみましょう！

スケジュール

～補助金の申請・交付・報告までの流れ～

※時期は目安であり、若干前後する場合があります。





問い合わせ先(旭区役所)

- 区政推進課 地域力推進担当(2階 23番窓口)
TEL:045-954-6028 FAX:045-951-3401
- 福祉保健課 事業企画担当(3階 31番窓口)
TEL:045-954-6143 FAX:045-953-7713
- 高齢・障害支援課 高齢者支援担当(別館 3番窓口)
TEL:045-954-6125 FAX:045-955-2675